

# 国語科学習指導案

海田町立海田西小学校 山根 結衣

1 日 時 令和4年11月16日（水）第3校時

2 学 年 第2学年1組 男子17名 女子18名 計35名

3 単元名 せつめいのしかたに気をつけて読み、それをいかして書こう

「馬のおもちゃの作り方」

「馬のおもちゃの作り方をせつめいしよう」（光村図書 「こくご二下 赤とんぼ」）

## 4 単元について

### （1）単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕「書くこと」の指導事項「ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。」「読むこと」の指導事項ア「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること。」を受けて設定している。

「語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫する」力とは、事柄の順序に沿いながら、文や文章の中で、語と語や文と文との続き方を考えて記述し、自分の考えを一層明確にして書き表す力である。順序に沿って考えた構成をもとに、内容のまとまりを明確にした記述の仕方を工夫することや時間や事柄の順序を表す語を適切に用いることが大切である。

また、「時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉える」力とは、どのような順序によって説明されているかを考えながら文章の構造を大づかみに捉え、それを手掛かりに内容を正確に理解する力である。どのような順序によって説明されているかを考えるためには、順序を表す言葉や前後の文に着目して読んでいくことが大切である。

本単元で扱う教材文「馬のおもちゃの作り方」は、前書き、材料と道具、作り方、遊び方が事柄ごとに分けて書かれており、順番は作る時の手順で書かれている。さらに、作り方は、分かりやすく説明するために順序の分かる言葉で順序を意識して書かれていたり、することの後にそのことが詳しく書かれていたりするなどまとまりを明確にした記述の工夫が見られる。事柄の順序を考えながら、内容の大体を捉やすい教材である。また、内容のまとまりがわかるように書き表された教材である。さらに、この単元は、「馬のおもちゃの作り方」（読むこと）と「おもちゃの作り方を説明しよう」（書くこと）の二つの教材で構成されており、教材文「おもちゃの作り方」を読み、その教材文を読んで学んだことを生かして、文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書く活動へ繋げることで、効果的にねらいとした力を身に付けさせることができる。

### （2）児童観

本学級の児童は、説明的な文章「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」を読む単元を通して、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえる学習を行ってきた。また、「書くこと」の単元「思い出して書こう」では、したことの順序に沿って書くことやその様子について詳しく書く学習をしている。

1年時の標準学力調査では、「事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている」の項目での全国平均が58.5%に対して本校は81.8%であった。全国平均や目標値よりは上回っているものの、まだ20%ほどの児童が捉え切れていない状況であった。その後、10月のドリルタイムで行った順序を捉える説明的な文章を読む問題では、通過率は93%であった。この問題ができなかった児童は、文単位での意味理解ができていないため、段落というまとまりでの意味理解もできていないことが考えられる。そのため、「たんぼぼのちえ」の学習の際には、教材文の順序を並び替える活動において、たんぼぼが育つ順序を想起したり、順序を表す接続詞に着目したりしながら並び替えるのではなく、音読によって記憶している順序を頼りに、機械的に並び替えた児童が多かった。このことから、設問で正答していても、文章の意味や前後の事柄を意識して順序を捉えていない児童が

いると推察される。これは、これまで、順序に気を付けることで分かりやすく情報を伝えたり受け取ったりすることができるというよさに気付く経験が少なかったことに要因があると考えられる。

また、「こんなもの見つけたよ」では、はじめ・中・終わりという文の組み立てに気を付けて書く学習を行った。家庭学習で文章を書く際にも、はじめ・中・終わりのまとまりで書くよう意識させているが、はじめと中を分けて書くことはできるが、中と終わりのまとまりの切れ目がどこか理解できていない児童が8%いる。要因として、まとまりに分けて書くことの良さが実感できていないことや、自分が伝えたいことを伝えるためにはどのようなまとまりに分けて書くと伝わりやすいか理解できていないことが考えられる。

このような実態から、文章の内容を確実に理解させるための手立てを講じるとともに、順序に気を付けて読んだり書いたりすることの実感を伴ったよさに気付かせる必要があると考えられる。

### (3) 指導観

指導に当たっては、体験と文章を行き来させ、説明されている内容を具体的にイメージしながら文章を読ませていく。実際に馬のおもちゃの作り方を読みながら馬のおもちゃを作って経験するだけでなく、複数のおもちゃを作る経験を通して、ものを作る時には、変えられない順序があることを経験する必要があると考えられる。そこで、馬のおもちゃの作り方の単元に入る前に生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」の学習を行い、複数のおもちゃを作る経験をさせる。その中で、材料の準備をしてから組み立てなければならないことや、同じものを作るためには、長さや数、材料が同じでないといけないこと等に気付かせておくとともに、「このおもちゃを他の人にも作ってもらいたい」という思いをもたせておく。その後、国語科において、教材文を読みながら馬のおもちゃを作ることで、作る時には、材料についての説明を読んで材料をそろえること、作業の手順に沿って作らないとおもちゃが作れないこと、作ってからではないと遊べないことなどに文章と経験を繋げながら気付かせる。

順序を表す言葉や事柄の順序に着目する必要性を感じさせるためには、順序よく書いてある文章のよさやその必要性に気付く必要があると考えられる。そのためには、自分自身が書き手となること、読み手にわかってもらえる文章を書く必然性をもたせることが大切であると考えられる。そのため、教材文「おもちゃの作り方をせつ明しよう」は単元の冒頭で見せておき、おもちゃの作り方を説明するために「馬のおもちゃの作り方」を読むという単元の流れを意識させたい。また、相手におもちゃの作り方を正確に伝えるためのコツを見付けるために、教材文を読みながらおもちゃを実際に作らせる。説明書を読んだ全ての人と同じおもちゃを作るためにはどんな情報が必要か、どのような工夫をしたらさらに分かりやすいのかを話しながら、作業手順、文章の構成といった事柄の順序に気を付けて書くことのよさに気付かせる。その際、数値や写真に着目しないことでおもちゃが作れない例を教師が見せることで、困り感を学級で共有し、その大切さについて言語化する。また、「まず、次に、それから、最後に」という言葉がある文章とない文章とを比較したり、〈材料〉や〈作り方〉〈楽しみ方〉のまとまりがある文章とない文章とを比較したりすることにより、事柄の順序に沿い、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫するよさに気付かせたい。

見つけたコツは、「忍法〇〇の術」として動作化する（例えば「まず、次に、それから、最後にの術」では、順序を表す言葉を手裏剣に見立て、手裏剣を一つずつ投げる動作に合わせて、「まず」「次に」「それから」「最後に」という言葉を唱える）ことで、楽しい雰囲気とともに確実に身に付けられるようにする。

教材文から整理したおもちゃのコツは、児童が説明書を書く過程においてもそのまま生かせるよう、「秘伝の書」としてまとめ、いつでも見返せるように手元に置かせておく。また、教材文の構成に従って説明書を書かせるのではなく、どんな項目が必要なのか、なぜ必要なのか改めて考えさせることで、情報と情報との関係についての理解をさらに深めていく。児童に書かせるおもちゃの作り方の説明書は1枚ものにせず、パンフレットのように製本し、ページごとに〈前書き〉〈材料〉〈作り方〉〈遊び方〉を分けて書かせることで、まとまりが分かるように書き表し方を工夫する力の育成につなげたい。

## 5 単元の目標

- 事柄の順序などの情報と情報との関係について理解することができる。  
〔知識及び技能〕 (2) ア
- 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫することができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 B (1) ウ
- 事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えることができる。  
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ア
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。  
「学びに向かう力、人間性等」

## 6 単元の評価規準

おもちゃの作り方を説明した文章を読み、分かったことを踏まえておもちゃの作り方を説明する文章を書く活動を通した指導 【言語活動例 C (2) ア及びB (2) ア】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。 (2) ア</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。(B (1) ウ)</li> <li>・「読むこと」において、事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・粘り強く、文章の中の時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学んだことを生かし、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫しておもちゃの説明書を書こうとしている。</li> </ul>

<評価の具体及び手立て>

	<p style="text-align: center;">評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】</p> <p>ワークシート</p> <p style="text-align: center;">「作り方の原稿」を折り返して貼る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>3 （作り方）</p> <p>作り方の原稿</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>2 材料や道具の 写真、絵</p> <p>（ざいりよう・どうぐ） ・紙コップ一つ ・わゴム一つ ・たん一の電池一つ ・つまようじ一本 ・セロハンテープ・きり</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>1 おもちゃの 写真や絵</p> <p>コロコロりんの作り方 海田 西子</p> <p>電池をつかったコロコロりんの作り方をせつめいします。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">作り方の原稿</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> <p>4 （あそび方）</p> <p>おもちゃの遊び方を説明する写真や絵</p> <p>電池のところを十回くらい回してから、たいらなところにおくと、カタカタと言いながらすすみませす。何こも作ってきようそうさせてもいいですね。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 60%;"> <p>作り方の原稿</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作り方③ の写真や 絵</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作り方② の写真や 絵</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">作り方① の写真や 絵</div> </div> <p>まず、ぶひんを作ります。つまようじを二センチメートルずつ二つ切り出します。つぎに、紙コップをしゃしんのようにきりで二つあなをあけます。それから、わゴムのわっかの中に電池をおいて、電池に輪ゴムをセロハンテープでつけます。はずれないように、電池のはしの方もしつかりセロハンテープでとめます。さいごに、紙コップのかたほうのあなに、わゴムのかたほうのはしを通します。あなにとおったら、つまようじでひっかけます。もうかたほうも同じようにします。これでかんせいです。つまようじでひっかけたところの上をセロハンテープでとめると、はずれにくくなってよいでしょう。</p> </div> </div> <p style="text-align: center;">〈单元最後の確認テスト〉</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">材料・道具</td> <td style="width: 15%;">前書き</td> <td style="width: 15%;">遊び方</td> <td style="width: 15%;">作り方</td> <td style="width: 15%;">文章の構成</td> <td style="width: 20%;">問題文</td> </tr> <tr> <td>材料や道具が必要かわからないからです。</td> <td>ついていのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。</td> <td>書いてあると何を作っているのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。</td> <td>ぼくは、この書き方ではいけないと思います。なぜなら、さいしよに作り方が書いてあると何を作っているのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。</td> <td>児童の解答例</td> <td>たろうくんがおもちゃのせつめい書を書きました。あなたは、このじゆんばんが良いと思いますか。思いませんか。また、そう考えた理ゆうも書きま</td> </tr> </table>	材料・道具	前書き	遊び方	作り方	文章の構成	問題文	材料や道具が必要かわからないからです。	ついていのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。	書いてあると何を作っているのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。	ぼくは、この書き方ではいけないと思います。なぜなら、さいしよに作り方が書いてあると何を作っているのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。	児童の解答例	たろうくんがおもちゃのせつめい書を書きました。あなたは、このじゆんばんが良いと思いますか。思いませんか。また、そう考えた理ゆうも書きま	<p>「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どう書いてよいか困ることが想定される児童は、おもちゃを作る様子を動画に撮っておき、それを見ながら文章を書かせる。</li> <li>・ 書いているときに、「秘伝の書」としてまとめたポイントが使えているか確認させる。</li> <li>・ 「何を」、「何で」を書き忘れることが考えられるため、個別の声掛けをし、意識させる。</li> </ul>
材料・道具	前書き	遊び方	作り方	文章の構成	問題文									
材料や道具が必要かわからないからです。	ついていのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。	書いてあると何を作っているのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。	ぼくは、この書き方ではいけないと思います。なぜなら、さいしよに作り方が書いてあると何を作っているのかかわらないし、どんな材料や道具が必要かわからないからです。	児童の解答例	たろうくんがおもちゃのせつめい書を書きました。あなたは、このじゆんばんが良いと思いますか。思いませんか。また、そう考えた理ゆうも書きま									

思考・判断・表現

事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。

7 指導と評価の計画（全14時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1	○教材文に出会い、これからの学習の見通しをもつ。				
二	2 3	○馬のおもちゃを作りながら教材文を読み、作る上で大事な語句や気をつけて読むところを見付ける。				
	4	○文がどんなまとまりで書かれているか考える。 (本時)		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体をとらえている。(C (1) ア)
三	5	○教材文を読んでまとめた「秘伝の書」を基に、おもちゃの作り方の説明書を書く計画を立てる。				
	6 7	○「秘伝の書」を基に必要な情報を集め、説明書を書く。 ・前書き・材料・遊び方を書く。 ・おもちゃの作り方をしながら、手順を短冊に書き出す。				
	8 9 10 11 12	○「作り方」の短冊の並べ替えを行いながら、順序や語と語のつながり確かめる。  ○書き上がった説明書を読み合っておもちゃ作りを行い、足りないところを補足する。  ○「秘伝の書」を確認しながら、前時に補足した部分を中心に、さらに読み手に分かりやすくなるように修正する。	○	○		[知識・技能] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序などの情報と情報との関係について理解している。 [思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫している。 (B (1) ウ) [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子</u> ・粘り強く時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉え、学んだことを生かし、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりがわかるように書き表し方を工夫しておもちゃの説明書を書こうとしている。
	13	○書いた説明書を読み合い、良いところを伝え合う。				
	14	○教材文を読みながら、説明書を書く際の工夫を振り返り、「馬のおもちゃの作り方」の文章についての感想を共有する。				

## 9 本時の学習

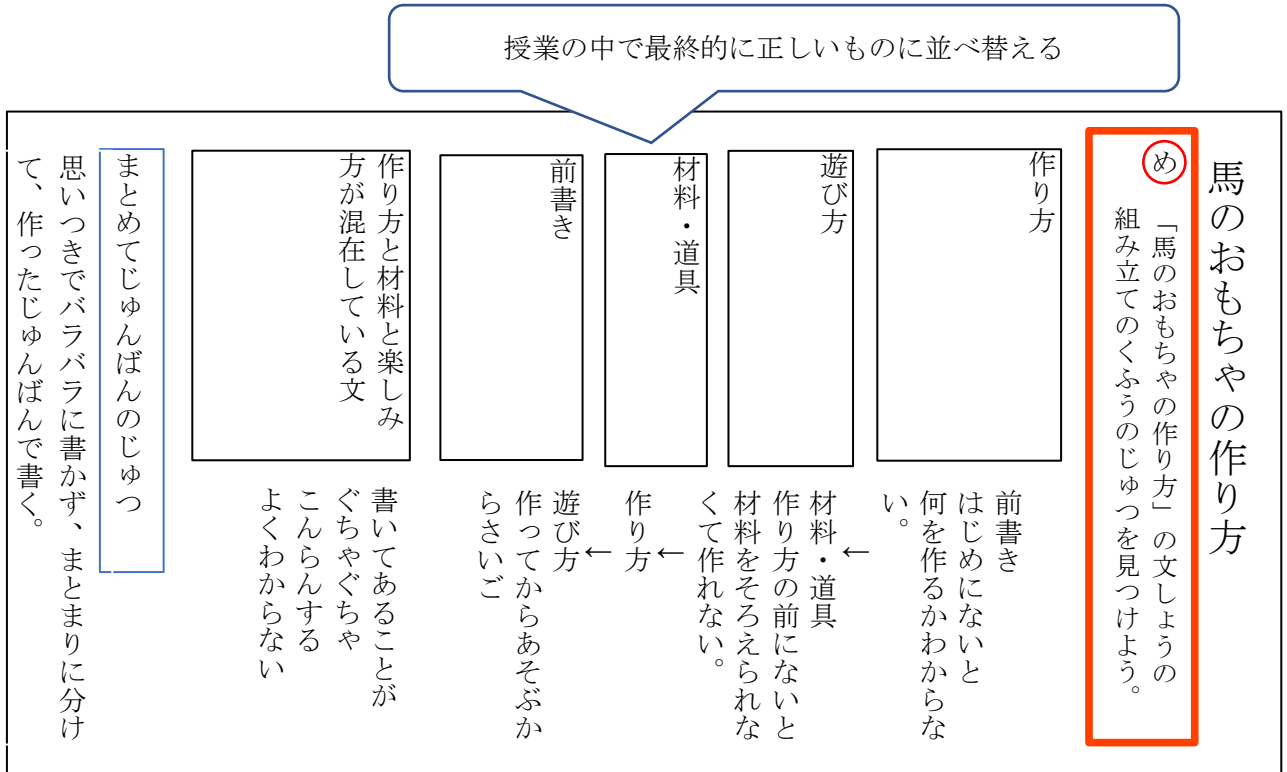
### (1) 本時の目標

教材文は<前書き><材料><作り方><遊び方>という事柄の順序で書かれていることを考えながら、内容の大体を捉えることができる。

### (2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準と評価方法
1. 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確かめる。(5分)	○今までしてきたことや今日することを確認するために、今まで見つけてきたコツを動作と共におさらいする。	
めあて 「馬のおもちゃの作り方」の文しょうの組み立てのくふうのじゅつを見つけよう。		
2. <作り方> <材料・道具> <遊び方> <前書き>の順で書かれている「馬のおもちゃの作り方」を音読しながら、違いを確かめる。(10分)	○入れ替えた文章を並べ替えて考えられるように、ワークシートには入れ替わった文を載せて配付し、書き込めるようにする。ホワイトボードには、順番を入れ替えられるように、まとまりごとにバラバラにして掲示する。	[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 (C (1) ア)
3. 順番が違うと何に困るか考える。(15分) 個人→ペア→全体	◆順序を入れ替えた文章と教材文とを並べて提示し、どちらがおもちゃを作りやすいと思うか尋ねることで、まとまりごとに書く良さや理由への気付きを促す。	
4. <作り方> <遊び方> <材料> <前書き>の混ざった文を見せ、まとまりごとに分けて書くことの良さを考える。(5分)	◆ <作り方> <遊び方> <材料> <前書き>の混ざった文章では、おもちゃを作る際に困ることは何かという視点で文章を読むように促すことで、分かりやすい説明書を書くためにはまとまりに分けて書くことの大切さに気付くようにする。	
5. 筆者の組み立ての工夫をまとめる。(5分)	○本時の学びを焦点化させるために、本時に学習した内容から、おもちゃの説明書を書くときに生かせるポイントを話し合うようにする。	
<u>にんぼう</u> まとめてじゅんばんのじゅつ 思いつきでバラバラに書かず、まとまりに分けて、作るじゅんばんに書くと良い。		
6. 今日の学習を振り返る。(5分)	○今日学んだことは何か明確にするために、本時で大切だと思ったことについて書くようにする。	

(3) 板書計画



<参考>

ワークシート①

<p>前書きの文</p>	<p>材料・道具の文</p>	<p>あそび方の文</p>	<p>作り方の文</p>	<p>馬のおもちゃの作り方 名前 ( )</p>
--------------	----------------	---------------	--------------	--------------------------

ノート

	<p>ふ</p>	<p>十一月十六日</p> <p>め 文の組み立てのくふうのじゅつを見つけよう。</p> <p>くまること</p>
--	----------	---

ワークシート② 本時に書き込む「秘伝の書」の内容

<p>忍法 まとめてじゅんばんのじゅつ</p> <p>思いつきでバラバラに書かず、 まとまりに分けて、作った じゅんばんで書くとよい。</p> 
---

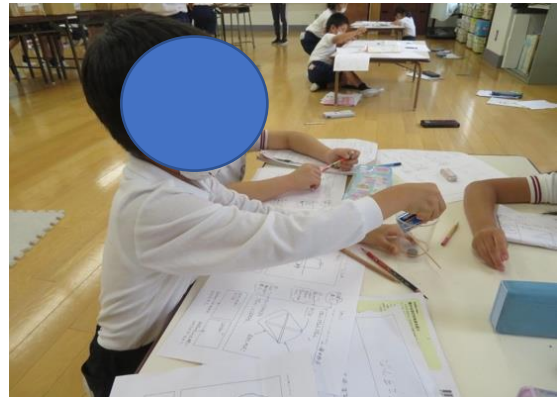


## 10 手立ての具体

### (1) 学習前の複数のおもちゃ作りの体験

#### 生活科「うごくうごくわたしのおもちゃ」、図画工作科「音作りフレンズ」との関連

生活科の単元では、さまざまな材料に触る時間、材料から動きを見つけ、おもちゃを考える時間、作ったおもちゃで遊ぶ時間、一度作ったおもちゃを改良する時間、さらにそのおもちゃで遊びを考える時間を十分に取った。おもちゃを作る時の手順を体験的に学ぶだけでなく、おもちゃを改良する時間によって切り込みの深さや、材料の大きさ材料の材質が少し違うだけでも、おもちゃの動きが変わることも気付いた。この経験も、正確に自分のおもちゃを作ってもらう上でとても大切な経験であると考えている。また、生活科だけではなく図画工作科で扱った、音が鳴るおもちゃ作りの題材も関連付けて学習を進めた。生活科と図画工作科のどちらのおもちゃを選んで説明書を書いて良いと促すことで、うごくおもちゃの作業手順が少なく、かえって書きにくさを感じていた児童が、音のなるおもちゃを選ぶことで作業手順が増え、説明書を書きやすくなった例があった。



### (2) 教材文からのおもちゃ作製

この活動は、①教科書に書いてあることを体験することで、文章と体験を往還しながら読む経験をさせる、②おもちゃの説明書を書く前に、作り手の立場になって文章を読む経験をさせるという二つの意図をもって行った。

また、材料は、教材会社の馬のおもちゃ工作キットを使った。お菓子の箱ではなく、キットを使った理由は、箱の大きさが正確であることと、箱に方眼が付いていることから、二つの意図を達成するためには、製作する時に、読むこと以外での工作上での困難さを少しでも無くしたかったためである。

### (3) コツをまとめた「秘伝の書」

説明書の書き方のコツを五つにまとめたものである。

低学年の児童が楽しんで学習できるように、以下のような動作をしながら全員で唱えた。

#### 【忍法 はじめに何を作るか書くの術】

「はじめ」を忍法の呪文を唱えるときのポーズになぞらえて、右手で数字の1を作り、右手の人差し指を左手で握り、左手も数字の1を作る。

#### 【忍法 まず つぎに それから さいごに の術】

順序を表す言葉を手裏剣に見立て、順序を表す言葉を唱えながら、手裏剣を投げる動きをする。

#### 【図や写真の術】

説明書に使われている図や写真を「隠れ蓑の術」で使われる壁紙に例え、図や写真を掲げるようなポーズをする。

#### 【数や大きさの術】

おもちゃの部品の数や大きさ等の数的な情報を吹き矢の長さに見立て、吹き矢の長さを表すようなポーズをする。

#### 【まとめて順番に書くの術】

事柄同士でまとめて書くことを、投げ縄でまとめて捕まえる動きになぞらえ、まとめて捕まえるような動きをする。



※赤文字の部分は、児童が書き込む内容。折りたたんで製本できるようにしている。

#### (4) 順番を並び替えて、なぜなのか問う

あえて順番を並び替えさせる活動を行わなかったのは、「たんぼぼのちえ」の学習の際に、正解であることにこだわって、教科書の記憶を頼りに何とか思い出そうとする姿が多かったためである。すでに、入れ替わっているものを見せる中で、その違和感や困り感に注目させ、作る時の手順などを基に考えて欲しかったため、あえてすでに並び替えてあるものを使用した。

#### (5) 文章の内容を捉えさせる順序の工夫

「読むこと」の学習過程においては、構造と内容の把握に基づいて精査・解釈するものではあるが、児童の実態や興味を鑑み、「前書き」や「遊び方」を含む文章全体の構造を捉える前に、おもちゃの作り方の部分のみを取り上げておもちゃを作製させ、その体験を踏まえて文章全体の構成に目を向ける方が効果的だと考えた。したがって、本単元の「読むこと」における学習過程は、①文章の一部を取り上げた精査・解釈、②文章全体の構造と内容の把握、③文章全体の精査・解釈 という流れで進めた。

## 11 評価の実際

### 【書くこと】

<B評価とした児童の割合>全体の73%

- ・まず・次に・それから・最後にと順序を表す言葉を使っている。
- ・<前書き><材料><作り方><遊び方>と内容のまとまりを混在しないように書いている。
- ・作る手順を正しく書いている。
- ・前の文や後の文との繋がりがあがる。

文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	〈作り方〉
<p>これで、かんせいです。紙コップに色をぬったり、もようをかいたりしてもいいですね。</p>	<p>さいごに、かん電池のついたわゴムをさつきあけたあなに通します。そして竹ぐしに通してひっかけます。</p>	<p>それから、紙コップのむところから一センチメートルのところにあなをあげます。</p>	<p>つぎに、竹ぐしを三センチメートルにきります。これを二つ作ります。</p>	<p>まず、わゴムとかん電池を絵のようにセロハンテープでくっつけます。</p>	

<A評価とした児童の割合>全体の27%

<B>で挙げている要素を全て含んでいる上で、作り方の中のまとまりの中で、表現上の順序（はじめに大まかなことを書いて、後から詳しく書くなど）も意識して書いている。

文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	文章の内容に沿った絵や写真	〈作り方〉
<p>これで、ギターのかんせいです。もち手のぶ分にも、もようや絵をかいてもいいですね。</p>	<p>さいごに、かざりつけをします。カラーペンでティッシュにすきなもようや絵をかきます。</p>	<p>それから、首にかけるぶ分を作ります。毛糸を自分の首に合う長さに切ります。きつた毛糸はかた方のもち手のよこに、もうかた方ははんたいがわに絵のようにセロハンテープでつけます。</p>	<p>つぎに、音がなるぶ分を作ります。わゴムを五本はさみで切ります。ティッシュをこのあなのところに切ったわゴムをのばしてガムテープではります。わゴムがピンとなるように気をつけます。</p>	<p>まず、もち手のぶ分を作ります。ラップのしんをボンドでティッシュのはこにはり、三十びようおさえます。その上からガムテープをはって、とれないようにします。</p>	

仕組みを作り終えた上で飾りをつけるような手順にするなど、おもちゃを実際に作ることを想定して書いている。

気をつけて欲しいところも書いている。

まとまりの中ではじめにどんな部分を作るか大まかに説明をしてから、詳しく説明している。

### 【読むこと】

< B評価とした児童の割合 > 全体の 100%

おもちゃを作る時の順序を作業のなどの根拠を基に、理由を挙げている。

### Bと評価した児童の記述の具体

からつりなっ書さい方 ですようし、いていま す。かや、るあよ。は 分どんかると作ぜな からぐな分何り方 ないがざから作が	す。分おもがはい方 。かもち書じめす。で 。からちいてめにす。は らないやをない何なけは いから作るると作ぜなこの からか何作るなら、書 でがのか、思き	いあ作りか前ら思き からあつりかをに、思方 です。て、方を知、作、い す。分の、る人、ます。わ かり後にたい何は、な、た りに書いのが、は、け、し にく、に、に、る、る、な
---	--	--

## 12 成果と課題

### 【成果】

- ・先に読み手の立場に立った結果、教科書に書いてあるからという理由を挙げず、作り方を知る前に材料を知る必要があるなど、自分たちの経験を基にしながら、表現上の順序について考えることができた。
- ・おもちゃ作りの体験を先にさせてから教材文に入ること、自分自身の経験を想起しながら、なぜその文章の順番で書かれているのかについて考えをもつことができた。
- ・教材文から、説明の仕方の良いところを学んだ後に書く単元の「おもちゃの作り方をせつめいしよう」に入ること、複数のおもちゃの作り方の説明書を見て、どのように書けば良いか一つの例文を読むよりも理解が深まっていた。
- ・「秘伝の書」にまとめることで、書くときに落としきれない情報や、推敲の際に見直す視点が明確になった。

### 【課題】

- ・教師が本時で考えさせたい「順序」を、「おもちゃの作り方の手順」と「文章表現上の順序」の二つとしてしまい、児童が迷ってしまった。課題の提示の仕方や順序についてももう少し研究する必要性を感じた。
- ・短冊を2行ほどのものにしたが、説明が入りきらないこともあったので、短冊を大きくし、罫線を引くことで文章量の個人差に対応できるようにすればよかった。
- ・おもちゃの説明書には写真を使う予定にしていたが、児童35人全員に対して、一人当たり7枚の写真を加工・印刷・配付する準備が難しかったため、実際には児童に絵を描かせた。写真を使わなかったことで、おもちゃの制作過程を正確に説明できない児童が見られるなど、国語ではない部分で身に付けさせたい力を付けることへの障壁が生じた。今後は、一人1台端末等のデジタル機器を用いて写真を配付することで、こうした課題が解決できると考える。